

一度、進学を
諦めかけた自分へ

私たちの
可能性は
無限大。

目次

- 00 自己紹介

- 01 高校までの学びの影響

- 02 私のターニングポイント

- 03 地元大学を選んだ理由

- 04 地方大学で学ぶ3つの意義

- 05 学びの接続：高校から大学へ

00 自己紹介



00 自己紹介

出身地 山梨県北杜市

高校時代 生徒会副会長

現在の活動 SPARC活動

所属委員会 大学祭実行委員会



山梨大学生命環境学部
たけした はるき
環境科学科 3年 竹下晴喜

01 高校までの学びの影響

■ 生徒会活動（副会長）

課題に主体的に向き合う姿勢の獲得

■ 総合的な探求の時間

授業を通じた地域の現状・課題の考察

■ 学園祭での展示

自分の足で歩き「地元のリアル」を知る

「山梨には何もない」という先入観が変化



02 私のターニングポイント

02.進路選択

具体的な夢はまだなかったが「地元に残り、地元で何ができるか探したい」という思いで山梨大学を志望。

04.現在

SPARC活動に注力。県外から来た学生たちから刺激を受けながら地元の新たな魅力に気づく毎日。

01.高校時代

探求学習や学園祭の地域調査を通じて、「山梨には何もない」という先入観が少しずつ変化し始めた。

03.大学入学後

生命環境学部での学びと並行し、生まれ育った地域での土地勘や人脈を生かして県内各地に足を運ぶようになった。

03 「地元の大学」を選んだ理由

■ 気づき

詳しく調べれば「何もない」わけではない

■ 動機

明確な夢がないからこそ、地元で夢を探したい

■ 決断

東京ではなく、地元で自分の可能性を切り拓く



04 地方大学で学ぶ3つの意義



圧倒的な フットワーク

土地勘・人脈・バイク
を活用。県内全域へ
即座にアプローチ。



地元愛の深化

自ら現場に足を運び、
課題や魅力に直接触れ
る。



新たな視点の 獲得

県外出身学生との交流
で、「外からの目線」
を知る。

高校での「気づき」



- 「何もない」の偏見払拭
- 地域に対する「興味の種」の発見

大学での「実践」



- SPARC活動で地域へ入り込む
- 興味が「地元での夢」へと進化



**「何もない」と思っていた地元
は、自ら動けば「無限の可能性」
に溢れていた。**



—高校での探求から始まり、SPARC活動を通じて見つけた私の答え

ご静聴ありがとうございました